事業区分　青少年教育に関するモデル的事業

事業名　令和７年度 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探求プログラム」

地域探求トライアル オリエンテーション合宿

[主　催] 国立阿蘇青少年交流の家

[後　援] 熊本県教育委員会

[期　日] 令和７年 10 月～令和７年 12 月

[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家、熊本県立阿蘇中央高等学校

[参 加 者] 熊本県立阿蘇中央高等学校 探究科 第１学年 14 人（カリキュラム B／学校・団体参加型）

[スタッフ] 職員２名

1　趣　旨

（１） 阿蘇の自然や地域課題を題材に、合宿や探究活動を通して課題設定・情報収集・分析・表現など探究のプロセスを体験的に学び、高校生の主体的学びと社会参画を促進する。

（２） 地域の課題に取り組むことで、多様な人々と協働しながら新たな可能性を創造し、地域への関心と学びを社会に還元する力を養い、地域資源の価値再発見と協働力を育成する。

（３） 活動成果を学習成果発表会等で発表し、高校生の挑戦を地域の誇りとして発信するとともに学びを可視化し、進路選択や将来設計にも活用可能なものとする。

2　目　標

（１） 情報収集・整理分析・表現の探究プロセスを実践的に体験して、活動成果を報告書や学習発表会でまとめ、自己表現力・発信力を向上させる。

（２） 阿蘇の自然・地域社会の課題を題材に、地域との関わりを意識した学びを深め、地域の自然・文化・課題に関心を持ち、学びを地域に還元する意識を醸成する。

3　事業展開

（１）企画・実施に向けて

カリキュラムに基づいた活動		合宿　10 月 8 日（水）		合宿 10 月 9 日（木）	
10 月 6 日	ガイダンス	9:00	開会式	9:00	グループワーク（問いの再構築）
10 月 8,9 日	オリエンテーション合宿（ワークショップ/演習/発表①）	9:30	草原散策・撮影①（問いを立てる・考える）	9:30	写真撮影③（試行）
		10:20	写真撮影講座、検討（知識・技術習得）	10:30	ワークショップ（考える・整理する）
10 月 14 日	課題選定の基礎（講話）	11:20	撮影②（振り返り・再考）	11:00	コンテスト準備（発信・共有）
10 月 22 日	地域課題の探究（講話・演習）	12:00	昼食	12:00	昼食
		13:00	阿蘇温泉観光旅館協同組合モニターツアー参加	13:00	写真コンテスト
12 月 18 日	学習成果発表会（発表②）	16:00	だご汁づくり	14:15	振り返り
12 月 26 日	地方ステージ実践活動のためのガイダンス	20:00	写真の振り返り（演習）	15:00	閉会式

（２）探究活動（コンテスト）の写真から







4　評価、成果と課題

（1） 評価

① アンケート結果　（回答　参加者 14 人）

質　問	とても	まあまあ	あまり	まったく
①　「探究ってこういうだ」と感じる場面はありましたか。	11 人	3 人	1 人	0 人
②　「市民に伝わる写真になるよう、自分なりに工夫できましたか？	11 人	3 人	1 人	0 人
③　仲間と意見を交換する中で、新しい発想や気づきはありましたか？	13 人	1 人	0 人	0 人
④　コンテストを通して、写真に込めた自分の思いや考えを伝えることができましたか？	11 人	3 人	0 人	0 人

（2）参加者の声

ア　新しい発見や気づき

・阿蘇の自然や水資源など、多様な地域資源を再認識

・写真撮影技術（構図・水平垂直）や表現力の重要性を理解

・協働活動や地域交流を通じて、協力の価値と地域貢献意識の芽生え

イ　今後取り組んでみたいテーマ

・自然・環境認すること（火山、植物、湧水、自然の歴史）

・地域社会に関すること（行政、祭りや行事）

・趣味や特技と組み合わせた体験型探究

ウ　感想

・だご汁づくりや写真コンテストなど活動を楽しみ、協力の大切さを実感

・阿蘇の自然について新しい知識を得て、探究の意味を理解

エ　アンケートのまとめ

本事業は、探究の理解、表現の工夫、協働、発信という一連のプロセスを体験的に学ぶ機会となり、ねらいに沿った学習成果が得られた。特に仲間との意見交換による新たな発想や気づきが得られる感想が多く、協働的な学びの効果が確認できた。

（3）成果

○　探究的な学びのプロセスを実際に体験することをとおして、自ら考え、試行錯誤しながら学びを進める姿勢を身につけ、主体的な学びを促進することができた。

○　阿蘇の自然を題材とした活動を行うことで、地域に対する関心が高まり、地域資源の価値を再認識する機会となった。単なる知識の習得にとどまらず、地域の魅力や課題を自分事として捉える意識が育まれた。

○　発表の場では、写真や言葉を通じて自分の考えや思いを表現する機会を持ち、表現力や発信力の向上が見られた。自分たちの学びを発信するという探究活動の本質を体験することができた。

（4）課題

○　本事業は交流の家が主体となり学校と連携して実施したものの、学校側の教育的意図や学習計画、学校現場の思いを十分にくみ取った内容となっていたかについては課題が残る。今後は、事前協議の充実や振り返りの共有を通して、学校のカリキュラムや指導方針との接続をより明確にしていく必要がある。

○　限られた合宿期間の中では、参加者の関心が高まったテーマを次の学びへ十分につなげられない部分もあり、探究の継続性や発展性をどのように確保するかが課題である。さらに、学びの成果を地域への具体的な提案や行動につなげる仕組みについても、学校側との具体的な連携を検討していく必要がある。